

## 立教大学観光学研究科教員紹介

**東 徹 (AZUMA, Toru)** 教授 e-mail: azumat@rikkyo.ac.jp

専門領域はマーケティング。主として大規模な消費財メーカーを念頭において構築されてきたマーケティングの基礎的な理論や技法を、企業のみならず、社会の様々な問題の解決に向けて拡張・適用していかうとする考え、すなわち「ソーシャル・テクノロジー」としてのマーケティングに立脚し、「観光」「サービス」「まちづくり」に関する様々な問題に取り組んでいる。観光ビジネスやサービス業の経営、さらには観光地や商店街の振興、地域ブランド、コミュニティビジネスなど、地域振興あるいはまちづくりに関わる諸問題にマーケティングを応用し、それぞれの問題の特質や構造の解明、問題解決に向けた方策の立案を試みながら、「観光マーケティング」「地域マーケティング」といった研究領域の確立、体系化をめざしていきたい。

**稲垣 勉 (INAGAKI, Tsutomu)** 教授 e-mail: inagaki@rikkyo.ac.jp

観光事象を対象にしたカルチュラルスタディーズを領域として指導を行う。観光は文化的な事象であると同時に、そのほとんどは商業的な取引関係のもとでの消費活動であると考えて良い。この観光の二面性を理解すること無しには、観光事象の統合的な理解には到達しない。大学院における指導はこの理解を前提として、経済格差、植民地主義の影響など様々な文脈のもとで生じる観光を巡る社会関係を取り扱う。具体的には①自然、文化、性などが観光を通じて商品化されていく過程、②上記をめぐる観光者と観光の供給側との相互作用、とりわけ③観光の導入に対処する地域住民の生業的な経済活動を研究テーマとする。

**岩田 修二 (IWATA, Shuji)** 教授 e-mail: iwata-s@rikkyo.ac.jp

2012年度定年退職

**大橋 健一 (Ohashi, Kenichi)** 教授 e-mail: ohashik@rikkyo.ac.jp (2011年度前期長期海外出張予定)

文化現象としての観光に関する文化人類学的・社会学的研究を研究テーマとする。観光を回路とした「文化」の生成過程に関する研究をはじめ、人と「文化」の移動の結節としての都市および結節となる諸施設・装置（ホテル、空港など）に関する研究、モノ（物質文化）の移動過程としての観光現象に関する研究、「トランスナショナリズム」・「トランスカルチャリズム」をめぐる理論的研究、など現代社会における移動性と「文化」の動態に着目した研究を特に行っている。

**小沢 健市 (OZAWA, Kenichi)** 教授 e-mail: setagaya@rikkyo.ac.jp

様々な観光事象・現象に対して経済理論を適用し分析することが研究課題であり、最近、以下の2点の研究に興味を持っている。

観光における古くて新しい問題でありながら、十分に説明することができているとは言い難い「消費者としての潜在的観光者の観光地の選択」という問題、換言すれば、潜在的観光者は多数の観光地の中からいかにしてある特定の観光地を選択しているのかという問題を、いかに経済学的に説明できるかという点に興味を持っている。また、観光産業と見なされている産業の観光における重要性は極めて高いにもかかわらず、観光産業の学術的分析、たとえば最近発展目ざましい産業組織論的分析あるいはゲーム理論的分析はほとんど行なわれていない状況にあり、それゆえ、観光産業の産業組織論的分析およびゲーム理論の適用による分析を行なうことが第二の目的である。

**葛野 浩昭 (KUZUNO, Hiroaki)** 教授 e-mail: kuzuno@mail.hinocatv.ne.jp

専攻領域は文化人類学。北欧スカンディナヴィア半島北極圏地域の先住民族・サーミ人の社会でのフィールドワーク調査を原点に、生業活動、文学や音楽などの芸術活動、博物館展示やそのための調査・研究活動などに注目しながら、世界の先住民族の復権運動・文化復興運動を研究している。観光に関しては、旧来のレジヤ的なエスニックツーリズムを乗り越え、先住民族側からは文化の発信、観光客側からは文化の学習と位置付けられる先住民族観光の展望に関心を持つ。指導可能な研究範囲はフィールドワーク論、民族誌論、先住民族観光あるいはエスニックツーリズム論、「観光のまなざし」論、北欧社会論、等。

**毛谷村英治 (KEYAMURA, Eiji)** 教授 e-mail: keyamura@rikkyo.ac.jp

娯楽・宿泊・保養を目的として利用され、楽しさや心地よさ、寛ぎ感、趣が重視される建築や都市についてその空間構成やデザイン手法を分析し研究するとともに、その中で営まれる人々の活動や行為、それらの積み重ねに伴って醸成される空間文化について研究している。特に、非日常な空間が持つ魅力の解明や、人の気持ちに変化を与える空間演出の手法についての研究に積極的に取り組んでおり、ホテルやカフェ、移動遊園地、繁華街などを対象に調査と分析を進めている。空間が持つ「らしさ」について特に着目しており、意匠的な構成要素の分析に加えて、それが生み出されることになった背景についても現地調査や文献調査を通して考察を進めている。

**佐藤 大祐 (SATO, Daisuke)** 准教授 e-mail: dsato@rikkyo.ac.jp

観光地理学を専攻しており、研究テーマは、文化伝播と地域形成、集客圏と客層、観光行動などである。これまで、都市部・リゾート地域を含めた沿岸域が、ヨットやダイビングなどのマリンスポーツの普及に伴っていかに変容したのかを、漁業や工業などの既存産業との軋轢や棲み分けといったものに注目しながら研究してきた。他にも、避暑慣習の伝播に伴う高原避暑地の形成や、ホテルの集客圏と客層などについても、土地台帳や宿泊客台帳などの詳細なデータを収集してGIS等を活用しながら分析し、解明してきた。今後は、上記の研究内容を充実させると共に、スポーツと観光の関わり（スポーツ観戦客による都心部活性化など）やまちづくりなどの分野にも研究対象を広げていく。

**杜 国慶 (DU, Guoqing)** 教授 e-mail: guoqingd@rikkyo.ac.jp

都市観光と観光地理学を研究テーマとする。空間概念を強調する地理学に基づき、「人間活動としての観光の空間的表現」を究明したい。その際、日本国内だけではなく、海外まで視野を広げ、空間的視点から観光現象を洞察する。地理情報システム（GIS）など新しい技術を活用する。近年、中国において、雲南省を対象とした少数民族地域の観光開発による地域の変容、華僑を多く送出した僑郷（華僑の故郷）について現地調査と研究を続けてきた。また、日本で帰化人口の変化を注目し、外国人の定住化に関する研究も進めている。

**豊田 由貴夫 (TOYODA, Yukio)** 教授 e-mail: ytoyoda@rikkyo.ac.jp

専門は文化人類学であり、パプアニューギニアを中心とする南太平洋地域を研究対象としている。これまでこの地域において、近代化が現地にもたらす影響を研究してきた。また、この地域を研究していることから、開発と文化の問題、新興国家におけるナショナル・アイデンティティ形成の問題、ネイション・ビルディングなどを研究課題としてきた。またこの他に民族植物学、観光と文化の問題、太平洋戦争の記憶なども研究課題としている。これらに加えて余技のような形で、睡眠と文化の研究、東京ディズニーリゾート研究も行っている。

**橋本 俊哉 (HASHIMOTO, Toshiya)** 教授 e-mail: hashi@rikkyo.ac.jp

観光行動の理論的研究に多角的に取り組んでいる。具体的には、観光・レクリエーション空間における人びとの行動特性研究、自然地域における観光行動と心理的効果の研究、観光行動における感動のプロセス分析や五感の効果に関する研究などである。また、これらの研究の知見をベースとし、観光者行動の視点にたった観光現象の理解や、観光地におけるゴミ捨てをいかに抑制するかなど観光地づくりへの応用に関する研究に、幅広く取り組んでいる。

**韓 志昊 (HAN, Jiho)** 准教授 e-mail: hanjiho@rikkyo.ac.jp

ホスピタリティ産業における小規模ビジネスのマーケティングやマネジメントの研究に取り組んでいる。家族経営や少人数での経営が直面する諸問題の分析や地域連携について研究している。また、ホスピタリティ概念の理解、行為としてのホスピタリティについても研究を進めている。

**舩谷 鋭 (MASUTANI, Satoshi)** 教授 e-mail: masutani@rikkyo.ac.jp

東南アジア、特にマレーシア・シンガポール・ブルネイなどの島嶼部について、フィールドワークを元にした地域研究を行っている。言語文化を主な研究対象とし、ポストコロニアル状況下の文学に加え、旅行記・ガイドブックなどのトラベルライティングについて、史資料読解の他、インタビューによって得られるオーラルヒ

ストーリーを用いた研究を行っている。具体的なテーマとして、ダークツーリズム、批評理論の観光研究への応用、人の移動研究としての華僑華人研究などがある。

**松村 公明 (MATSUMURA, Koumei)** 教授 e-mail: matsumurak@rikkyo.ac.jp

地理学を専門領域とし、とくに観光地理学に関わる分野では、旅行者の流動からみた拠点都市と、交通後背地の形成・変容過程に関する研究を、主要な研究テーマとする。広域スケールでは、交通革新によるゲートウェイシティの出現と、それを結節点とする観光交通地域の再編成など、地域システムに関わる諸問題を対象とする。都市内スケールでは、都心の拡大と移動にともなう観光空間の変容など、都市内部構造に関わる地理的事象を取り扱う。おもなフィールドとして、日本の東北地方を中心とする地方都市、およびフランスの諸都市に加え、近年には国境観光に着目した中国周辺地域が挙げられる。

**村上 和夫 (MURAKAMI, Kazuo)** 教授 e-mail: kazuopm@rikkyo.ac.jp

①<観光言説の研究>観光経験後に人々が行う旅行言説の研究から観光旅行が社会にもたらす「楽しさ」の研究を行う。物語論ならびにレトリック分析により、観光経験にもとづく“旅の楽しさの語り方”の特性を明らかにし、それが日常会話からメディアへと広く用いられる現象を明らかにする。②<観光地の地域運営方法の研究> 少子高齢化による社会構造の変容が、観光地運営に与える影響と対応策として観光地運営の革新について分析する。とくに、農山村地域におけるグリーンツーリズム以降の地域社会と観光事業の関係について研究する。

**安島 博幸 (YASUJIMA, Hiroyuki)** 教授 e-mail: yasujima@ja2.so-net.ne.jp

「観光地リゾートの歴史的研究および観光地の発展と衰退過程に関する理論的研究」をテーマとしている。具体的なテーマとして、①日本の近代リゾートの成立と発展過程に関する研究、②アジアにおけるヒルステーションの歴史的研究、③観光地の発展と衰退のメカニズムに関する研究、④景観知覚とイメージの生成に関する理論的研究など。